

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。雨により室内でのお話会になったので、6月4日に行った、てがたん下見時の観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回7月の「てがたん」は7月9日(土)で「クモと虫」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは7月2日(土)です。よろしくお願いたします。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→水生植物園（フジ棚）→手賀沼遊歩道
- 観察日時/天気 2011年6月4日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 市民スタッフ 7名（加藤文夫、蒲田知子、須貝基康、弘實さと子、古川克彌、水上香苗、湯瀬一栄）
- 鳥博職員 2名（塩田いづみ、村松和行）

観察記録 — 6月下見に観察した生き物リスト—

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ/ウ科：カワウ/キジ科：キジ/カモメ科：コアジサシ/ハト科：キジバト/キツツキ科：コゲラ/ツバメ科：ツバメ/セキレイ科：ハクセキレイ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：オオヨシキリ、ウグイス/シジュウカラ科：シジュウカラ/メジロ科：メジロ/アトリ科：カワラヒワ/ハタオリドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/外来種や家禽：コブハクチョウ

【両生類】ニホンアマガエル（幼体）、トウキョウダルマガエル、ウシガエル

【昆虫・クモ】

チョウの仲間：アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、ダイミョウセセリ、ゴマダラチョウ、タケカレハ（幼虫）、セシジミ、シヤクガ種不明（幼虫）、スゲドクガ、タケノホソクロバ/甲虫の仲間：ナミテントウ、ダンダラテントウ、クロウリハムシ、オオヒラタシデムシ、コフキゾウムシ、シロコブゾウムシ/ハチの仲間：クマバチ、コマルハナバチ/クモの仲間：ナカムラオニグモ、ハナグモ

【主に観察したチョウの食草】

*「→」は主に食草とするチョウをあらわしています

キク科：ヨモギ→ヒメアカタテハ/セリ科：セリ、フェネル（植栽）、アシタバ（植栽）→キアゲハ/ユリ科：サルトリイバラ、タイワンホトトギ（植栽）→ルリタテハ/アブラナ科：イヌガラシ→スジグロシロチョウ/スミレ科：スミレ→ツマグロヒョウモン/マメ科：シロツメクサ、クズ、ノダフジ（植栽）、ヤマハギ、ニセアカシア（植栽）→キチョウ、モンキチョウ、ウラギンシジミ（花やつぼみ）/カタバミ科：カタバミ→ヤマトシジミ/イネ科：ヨシ、ササ（種不明）、イネ→ギンイチモンジセセリ/スイカツラ科：スイカツラ→イチモンジチョウ/スイバ科：アレチギシギシ、ギシギシ→ツバメシジミ/イラクサ科：カラムシ→アカタテハ/ニレ科：エノキ→ゴマダラチョウ/ブナ科：アカガシ→ムラサキシジミ、マテバシイ→ムラサキツバメ/クスノキ科：クスノキ、シロダモ→アオスジアゲハ/ハンノキ科：ハンノキ→ミドリシジミ/ヤナギ科：シダレヤナギ（植栽）→コムラサキ/ミカン科：サンショウ→アゲハ/アカネ科：クちなシ→イワカワシジミ/クワ科：カナムグラ→キタテハ/アジサイ科：ウツギ（蜜源植物）/ブドウ科：ヤブガラシ（蜜源植物）

6月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「チョウの食草」でした。残念ながら雨のため室内でのお話になりました。案内人の古川さんに我孫子に生息するチョウだけでなく、日本各地の様々なチョウについて標本を使って説明していただきました。



今月の案内人 弘貴さと子さん、古川克彌さん



①
ダイミョウセセリの幼虫の主な食草はヤマノイモ。



②
スゲやイネ科の植物を食草とするスゲドクガの幼虫。



③
セスジナミシヤクの幼虫の食草はアケビ科の植物。



④
シヤクガの幼虫は腹脚が少ないため尺を測る様に進む。



⑤
ウツギの花に花粉や蜜を求めてクマバチが集まっていた。



リュウキュウムラサキ

日本のチョウのお話に出てきた八重山諸島を中心に生息するチョウ（♂）。台風などによって本州で見られることがある迷蝶。食草はサツマイモ。



6月てがたん下見の観察生物とルート



クロコノマチョウ

日本のチョウのお話に出てきた本州以南に生息するチョウで、近年分布が拡大している。食草はイネ科の植物。手賀沼のヨシ原で観察される日がくるかも？



⑩
開花することが少ないササ（種不明）の花。



⑨
交尾中のタケノホソクロバ。幼虫はタケ類を食草とする。



⑧
スイカズラの花は咲き始めは白いが徐々に黄色くなる。イチモンジチョウの食草。



⑦
イネ科の植物を食草とするタケカレハは手賀沼周辺でよく観察される。



⑥
ハムシを捕まえたハナグモ。

初夏のヨシ原でさえずるオオヨシキリはどんな鳥？

スズメ目ウグイス科（体長18～19cm）

分布 日本には夏鳥として沖縄を除き全国に渡来する。日本で繁殖したものは主に東南アジアで越冬する

生息地 低地～山地の水辺のヨシ原

食べ物 主に昆虫

繁殖 繁殖期は5～8月で、一夫多妻で繁殖する。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を使って椀状の巣をつくる。巣作りや抱卵はメスが言い、ヒナへの餌やりはオスメスで行う。一つの巣に4～6個の卵を産む。



巣



卵